

組織目標管理シート

問合せ先(電話番号) 025-232-7334(経営管理課)

年度	令和4年度		
組織名(部)	水道局経営企画部	組織名(準部・課・機関名)	経営管理課
組織の目的	節水器具の普及や節水意識の浸透などにより、今後も給水量の減少傾向が見込まれるなか、健全な水道事業経営を確保していくために、引き続き一層の経営基盤の強化を図るとともに、中長期的な視点に立ち、事業を安定継続させます。		

作成日	令和4年4月1日
修正日	
評価日	令和5年3月31日

No.	部 区 組織目標	組織目標	主な取組(事業)	指標						補足・参考指標	目標達成状況	評価
				項目(単位)	R1実績	R2実績	R3実績	R4目標	R4結果			
1	1	水需要の減少を踏まえた、将来的な料金体系を検討します。	・現行料金の課題を踏まえた、将来的な料金体系の検討	将来的な料金体系の検討			実施	実施	実施		将来的な料金体系の検討に向けて、他都市との比較を踏まえ、生活用として配慮すべき料金の範囲及び水需要の動向を考慮した従量料金の水量区分について方向性を整理しました。	達成
2		新・マスタープランの進行管理及び情報の公開を行います。	・毎年度評価の実施 ・事業、取り組み状況の分かりやすい公表	年度評価の実施	実施	実施	実施	実施	実施	・ホームページ等による公表	附属機関である水道事業経営審議会から、新・マスタープランの令和3年度事業・取り組みに関する2次評価をいただきました。評価結果をホームページに掲載するとともに、市政情報室においても閲覧できるようにしました。	達成
3		事故・災害時などの非常時における、迅速かつ確かな応急給水・応急復旧体制を確保します。	・危機事象対応マニュアル等、事故・災害時に備えた各種マニュアルに基づく訓練等の実施 ・災害対応に係るマニュアル見直し	局内訓練等の実施回数(回)	2	2	2	2	3	・局内の防災訓練や危機管理・防災体制説明会の実施数 ・上記の他、他団体主催の各種訓練への参加予定あり	4月と12月に水道局内防災担当者会議を実施したほか、1月には市の地震対応訓練に併せて、水道対策部運営訓練を実施しました。また、他団体主催の各種訓練にも参加しました。	達成
				応急給水体制の検討	検討	検討	検討	検討	検討	・効率的で効果的な応急給水に向け、今後取り組むべき対策を検討	応急給水体制の課題の検討を進めました。応急給水拠点に設定する候補として、市内の公園や小中学校の避難所について現状と課題を整理しました。	

取り組みについて(今年度重点的に取り組む内容や目標設定の考え方など)	取り組みの結果について(評価内容と評価結果を踏まえた今後の方針など)
<p>現行料金の課題と将来の水需要変動を見据えた、将来的な料金体系を検討します。</p> <p>また、新・マスタープランの進行管理を的確に行うため、引き続き局内部及び附属機関である経営審議会による事務事業評価を実施し、評価結果をホームページ等により公表します。</p> <p>事故・災害時などの非常時において、迅速かつ確かに応急給水・応急復旧体制を確保するために、マニュアルに基づいた訓練や説明会を開催するとともに、更なる応急給水体制の強化に向けた対応を検討します。</p>	<p>前回(H13)料金改定以降の水需要減少傾向について、口径別に影響を調査するとともに、他の政令指定都市の料金体系を分析し、生活用として配慮すべき料金の範囲及び水需要の動向を考慮した従量料金の水量区分について、対応の方向性を整理しました。</p> <p>また、新・マスタープランの進行管理を的確に行うため、引き続き局内部及び附属機関である経営審議会による事務事業評価を実施し、評価結果をホームページに掲載するとともに、市政情報室で閲覧できるようにしました。</p> <p>事故・災害時などの非常時において、迅速かつ確かに応急給水・応急復旧体制を確保するために、継続して必要な訓練や説明会を開催するとともに、更なる応急給水体制の強化に向けた対応を検討していきます。</p>

組織目標管理シート

問合せ先(電話番号) 025-232-7306(計画整備課)

年度	令和4年度		
組織名(部)	水道局経営企画部	組織名(準部・課・機関名)	計画整備課
組織の目的	人口減少社会の本格的な到来によって、長期的な視点に立ち、効率的かつ効果的に水道施設を管理運営することが必要不可欠になっています。建設改良費の抑制と切迫度の高い災害リスクへの対応を両立しつつ、将来にわたって持続可能な水道事業運営を実現します。		

作成日	令和4年4月1日
修正日	
評価日	令和5年3月31日

No.	部区 組織目標	組織目標	主な取組(事業)	指標						目標達成状況	評価			
				項目(単位)	R1実績	R2実績	R3実績	R4目標	R4結果			補足・参考指標		
1	2	浄配水施設整備に併せ、効率的に浄配水施設等の耐震化を進めます。	・浄配水施設の計画的耐震化	耐震化施設数の計画実績比(完了数/全計画8施設)	阿賀野川配水池 4/14	長峰配水池の耐震化の推進	5/8	長峰配水池	青山配水池、秋葉配水池、巻沈砂池の耐震化の推進	青山配水池施工中、秋葉配水池着手、巻沈砂池発注準備	・耐震補強実施予定施設数(H27~R6):8施設(R2年度に計画数14⇒8へ見直し) ・青山配水池耐震化(R3~R5) ・秋葉配水池耐震化(R4~R5) ・巻取水場沈砂池耐震化(R4~R5)	青山配水池はR5第二四半期の完了に向けて順調に施工を進めています(池の耐震化は完了)。秋葉配水池は計画通りに工事着手しました。巻沈砂池は設計が完了し発注に向け準備を行っています。	達成	
2	3	老朽化した管路施設の計画的更新とともに、管路施設の耐震化を進めます。	・基幹管路の更新事業の進捗管理	基幹管路の耐震適合率(%)	65.3	66.7	67.9	68.2	69.0	・新MP後期実施計画 R4目標値 68.2%		基幹管路更新事業について、工事担当課と連携し、綿密な進捗管理を行った結果、基幹管路耐震適合率は新MP目標値を上回ることができました。	達成	
3	4	老朽化した設備を計画的に更新するとともに、施設規模を適正化します。	・青山浄水場施設整備事業(R3~R6)	事業進捗率(%) (実績累計出来高/計画事業費)				0.1	30.0	25.9	・構内水管耐震化工事(R3~R6) ・構内水管布設工事(R3~R5R4) ・2系沈砂池・ろ過池改修工事(R4~R5) ・配水池長寿命化工事(R3~R5) ・資材倉庫更新工事(R3~R4) ・受変電設備更新工事(R3~R5) ・電気計装設備更新工事(R3~R6) ・監視制御設備機能増設工事(R4~6) ・配水ポンプ設備更新工事(R3~R5) ・薬品注入設備更新工事(R4~6)	土木工事において想定外の構内埋設物が支障となり、調査及び処置に時間を要したため工程に遅れが生じたことなどにより、目標事業進捗率を達成することが出来ませんでした。設備工事は予定通りR4年分の機器製作が完了し新旧設備の切替に向けて工事を進めており、整備事業スケジュールを調整して着実な施工を目指します。	一部未達成	
			・巻取水場施設整備事業(R4~R6)	事業進捗率(%) (実績累計出来高/計画事業費)					1.0	1.4	・沈砂池長寿命化工事(R4~R5) ・管理館改修工事(R4~R5) ・受変電設備更新工事(R4~R6) ・自家発電設備更新工事(R4~R5) ・取水ポンプ設備更新工事(R4~R6) ・活性炭注入設備更新工事(R4~R6)	自家発電設備における一部の機器が完成し、目標とする事業進捗率を達成しました。関連工事との調整や機器仕様への検討など施工に向けた準備を進めています。		
			・長期的な浄配水施設の規模適正化のための水道施設整備長期構想に基づく基本計画の策定	中部エリア基本計画策定						基本計画策定に係る業務委託発注、検討着手	基本計画策定に係る業務委託発注、検討着手	・仕様決定、受託業者の選定(R4) ・基本計画の策定(R5)	中部エリア基本計画策定に係る委託業務を予定通り発注し、検討に着手しました。	
4		事業マネジメント力や技術力を持った人材を育成します。	・技術研修の実施	課内研修の回数(回)	13	12	11	10	10	10	下記の研修など課内研修を10回開催 ・水道施設計画研修 ・管路事業計画研修 ・現場技術力向上研修 ・各種業務成果報告会(直営・委託) ※主要研修において習熟・理解度を確認し、随時フォローアップを実施する。	課内研修を10回開催し、延べ154人が受講しました(1研修当たり:約15人受講)。	達成	

取り組みについて(今年度重点的に取り組む内容や目標設定の考え方など)	取り組みの結果について(評価内容と評価結果を踏まえた今後の方針など)
<p>浄配水施設の耐震化では、耐震診断結果に基づき、令和6年度までに土木構造物8施設の耐震補強を予定しており、今年度は青山浄水場配水池と秋葉配水池配水池および巻取水場沈砂池の耐震化に着手します。</p> <p>管路施設の更新・耐震化では、事故災害時に影響が大きい老朽基幹管路・配水支管の更新・耐震化に重点的に取り組む計画としており、工事担当課と連携してその進捗管理を行います。</p> <p>各施設整備事業は老朽化設備の更新と施設の耐震化を目指します。2年目となる青山浄水場施設整備事業(令和3年度~6年度)は、構内水管耐震化工事やポンプ設備・電気計装設備工事など、工事の施工管理を着実に実施します。また、巻取水場施設整備事業(令和4年度~6年度)は沈砂池長寿命化工事や自家発電設備更新工事など、6工事を発注します。</p> <p>計画策定では、今後も効果的かつ効率的な施設整備を進めるため、長期的な視点に立ち、施設の再編や規模適正化などの検討を進めていきます。水道施設整備長期構想に基づく次期マスタープラン以降の施設整備計画の策定に向け、中部エリアの施設整備について基本計画の検討を進めます。</p> <p>また、課内業務を通して、積極的に技術研修を実施し、事業マネジメント力や技術力を持った人材を育成します。</p>	<p>浄配水施設の耐震化は計画通り、青山浄水場配水池と秋葉配水池配水池および巻取水場沈砂池の耐震化を進め、令和6年度までに土木構造物全8施設の耐震補強を完了する予定です。</p> <p>管路施設の更新・耐震化では、工事担当課と連携し綿密な進捗管理を行ったことで目標を達成することができました。今後も適切な進捗管理を行い、目標値の達成に努めていきます。</p> <p>青山浄水場施設整備事業は今年度の目標事業進捗率を達成することが出来ませんでした。引き続き稼働施設の安全確保を最優先として、工程調整を行いR6の事業完了に向けて確実な施工管理に努めます。また、巻取水場施設整備事業についても計画通りに工事を進めていきます。</p> <p>中部エリアの将来像を踏まえた効率的かつ効果的な整備工程を検討するため、中部エリア基本計画策定業務委託を発注し、関連する施設整備の検討に着手しました。次年度は、中部エリアに係る施設整備工程の作成と概算事業費の算出などに取組みます。</p> <p>課内研修は目標通り10回を開催しました。局内の階層別、専門別、採用10年目研修や全国研究発表会で講師や発表者となる職員が、本番と同じプロセスを経験することで、プレゼン能力の向上と想定問答のイメージを掴むことを目的とした研修を開催しました。各研修とも受講者から活発な質問やコメントが数多く出ており、実践的な機会を得られました。</p>

組織目標管理シート

問合せ先(電話番号) 025-232-7313(総務課)

年度	令和4年度		
組織名(部)	水道局総務部	組織名(準部・課・機関名)	総務課
組織の目的	水道局の組織、人事、研修、広報、広聴及び安全衛生に関する事務事業の調整を所管する部署として、効率的な事業運営と人材育成を推進するとともに、お客さまへの事業の説明責任を果たします。		

作成日	令和4年4月1日
修正日	
評価日	令和5年3月29日

No.	部 区 組織目標	組織目標	主な取組(事業)	指標						目標達成状況	評価	
				項目(単位)	R1実績	R2実績	R3実績	R4目標	R4結果			補足・参考指標
1	1	次世代を担う人材を育成します。	<ul style="list-style-type: none"> 水道研修センター研修の計画的実施 職場単位でのOff-JTの充実、活性化 研修時に適切な新型コロナウイルス感染症対策を実施 	内部研修実施時間(時間/人)	16.1	5.0	7.9	8.2	12.4	<ul style="list-style-type: none"> 水道事業ガイドライン業務指標C203「新・新潟市水道事業中長期経営計画」における目標値:R4 19.4h/人 新型コロナウイルス感染症対策として、少人数での研修を実施 新型コロナウイルス感染症対策の一つとして、主催・運営する全ての研修に「新型コロナウイルス感染症対策チェックリスト」に基づいた対策を実施 	新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、職員研修基本計画に基づく研修を予定通り実施しました。また、各所属が積極的に職場内Off-JTを開催したことにより目標を達成することができました。	達成
				チェックリストに基づいた対策の実施率(%)	-	-	100.0	100.0	100.0			
2		職員の健康を保持するため、安全衛生に配慮した施策を実施します。	<ul style="list-style-type: none"> 受診勧奨の実施 安全衛生委員による職場巡視の実施 	定期健診精密検査受診率(%)	85.6	90.9	79.1	90.0	86.7	<ul style="list-style-type: none"> 定期健診における要精密検査対象者の精密検査受診率 受診者数(報告者数)/対象者数 	令和4年度末(R5.3.27現在)における要精密検査対象者の精密検査受診率は、対象者83名中72名が受診しました。受診率は86.7%となり、目標達成には至りませんでした。	一部未達成
				職場巡視の実施回数(回)	3	4	1	3	5			
3		省エネルギー化など、効果的な環境対策を推進します。	<ul style="list-style-type: none"> 水道局本庁舎の蛍光灯照明器具を計画的にLED照明器具へ取り替えます。 	LED照明器具への計画的取り替え(灯)	-	-	81	91	99	<ul style="list-style-type: none"> LED照明器具交換予定数(R3年度~R7年度:合計475灯) R3: 81灯 R4: 91灯 R5: 102灯 R6: 108灯 R7: 93灯 	計画通り予定数の照明器具を交換したほか、個別に発生した照明器具の交換を行い目標を達成しました。	達成

取り組みについて(今年度重点的に取り組む内容や目標設定の考え方など)	取り組みの結果について(評価内容と評価結果を踏まえた今後の方針など)
全てのお客さまに信頼される水道事業の実現に向け、「新・新潟市水道事業中長期経営計画~新・マスタープラン~」に掲げた事業計画を安全かつ着実に実施するため、その担い手となる人材を育成するとともに、職員の健康を保持するため、安全衛生に配慮した施策を実施します。また、本局庁舎においては、これまでも窓の二重サッシなど省エネルギー化を図ってきましたが、今後、既設照明器具の生産終了に伴い部品調達が困難となることを踏まえ、昨年に引き続き計画的にLED照明器具に取り替え、電力消費量の抑制および環境負荷の低減を図ります。	次世代を担う人材を育成するため、新型コロナウイルス感染症対策を講じ、計画的に水道研修センターでの研修を実施するとともに、外部講師の招聘や広報活動イベントへ積極的に参加しました。また、職場単位でのOff-JTの実施も増え、内部研修実施時間の目標を達成することができました。水道技術の継承を図るため、今後も職場内Off-JTを中心に効果的な人材育成を行っていきます。 安全衛生委員による職場巡視については、目標値を上回る実施回数を達成しましたが、定期健診要精密検査対象者の精密検査受診率については、目標達成に至りませんでした。 職員の健康保持・職場環境整備については、労働安全衛生の観点からも非常に重要であり、水道事業の円滑運営に大きく寄与するものと考えます。新型コロナウイルスの流行の影響も受けましたが、事業の重要性を踏まえ、今後も引き続き、職員の健康保持と安全衛生に配慮した施策の実施を進めます。 本局庁舎の蛍光灯照明器具は、計画通り予定数の照明器具を交換したほか、個別に発生した照明器具の交換を行い目標を達成しました。今後の交換予定の照明器具についても、計画通り進めるとともに、必要に応じて個別に交換を行っていきます。

組織目標管理シート

問合せ先(電話番号) 025-232-7365(経理課)

年度	令和4年度		
組織名(部)	水道局総務部	組織名(準部・課・機関名)	経理課
組織の目的	水道事業会計事務の担当課として、所管する会計事務及び契約事務において適正かつ効率的に業務を執行し、健全な事業運営を維持します。		

作成日	令和4年4月1日
修正日	
評価日	令和5年3月31日

No.	部区 組織目標	組織目標	主な取組(事業)	指標						目標達成状況	評価		
				項目(単位)	R1実績	R2実績	R3実績	R4目標	R4結果			補足・参考指標	
1		適正な会計事務を推進するとともに、支払の迅速化と遅延防止を実現します。	・研修会等の実施により、適切な会計処理と支払遅延防止に対する職員の意識と能力の向上	研修会の実施(回)	2	2	2	2	2	2	・初任者向け 1回(階層別研修) ・実務者向け 1回(会計実務研修)	会計実務を担当する職員を対象とした研修会を実施するなど、職員の意識向上を図ったことで、支払遅延等の不適切な会計処理の発生を防止することができました。	達成
2		適正な資金管理を行い、安全で効率的に資金を運用します。	・効率的な資金運用	運用率(預託金/総資金額)(%)	83.1	83.2	85.2	85.0以上	85.1	・総資金額(運用可能金額)が前年度より減少する見通しの一方、支払準備資金を圧縮することは難しい状況にあるため、目標値は前年度並みに設定	・収支見込の精度を上げ、支払準備資金(決裁用預金残高)を必要額に抑えるよう努めたことで目標を達成することができました。	達成	
3		公共工事等の入札にあたっては、地元企業を優先する入札参加要件等を設定し、施工を通じて地元業者を育成します。	・地元企業を優先した受注機会の拡大	特殊な工事案件を除き、地元企業を優先した入札参加要件の設定(%)			100.0	100.0	100.0	・指名競争入札については、工事場所(地域)を考慮しながら指名業者を選定	・指名競争入札については、工事場所(地域)や指名回数(回数)の平準化を考慮し、地元企業の受注機会の拡大に努めることができました。	達成	
4	2	当局の実情に応じて新潟市と入札・契約制度の整合性を保ち、制度の改定等に当たっては迅速に対応し、制度の適正な運用を推進します。	・市契約担当部署と情報共有を図るとともに、水道局における適正な契約・入札事務の実施が継続されるよう、定期的に所管契約事務の運用状況の点検を行います。 ・研修会の実施	点検の実施(回) マニュアル等の更新			2	2	2	・上半期、下半期それぞれ1回	・所管課に対し、適正な契約事務が行われているか、上半期と下半期に各1回点検を実施しました。また、市契約担当部署と制度改正等の情報共有を図り、契約事務を担当する職員以外にも、工事担当者を対象とした工事契約研修会を実施するなど、職員の意識向上を図ったことで、不適切な契約事務の発生を防止することができました。	達成	
				研修会の実施(回)			1	2	2	・実務者向け 1回(専門別研修) ・工事担当者向け 1回			

取り組みについて(今年度重点的に取り組む内容や目標設定の考え方など)	取り組みの結果について(評価内容と評価結果を踏まえた今後の方針など)
<p>支払遅延防止については、適正な会計事務の執行と支払遅延防止のための研修会等を実施し、各課事務担当職員の意識と能力を向上させます。また、研修内容の検討及び資料作成等の準備を通じ、講師担当職員のスキルアップが期待されます。</p> <p>公金については、適正な管理を行うとともに、運用可能額の減少が進み、運用率を上げることが難しくなる状況にあっても、資金収支見込の精度を上げ、安全で効率的な運用を行います。</p> <p>公共工事等の入札にあたっては、地元企業を優先する入札参加要件等を設定し、受注機会を増やし、施工を通じて地元業者を育成します。</p> <p>契約事務については、市契約担当部署と連携し、情報共有を図り、入札制度の適正な運用に取り組めます。その上、各課の契約事務が適切に行われるように所管運用状況の点検を行うとともに、契約事務マニュアルの整備を行い、研修会を開催し契約事務能力の向上に努めます。</p>	<p>会計実務研修を通じて、会計事務担当者のスキルアップと意識向上を図ることができました。</p> <p>内部統制においても、支払遅延防止に関する内容を重点リスクとして掲げていることから、不適切な会計処理の防止に重点を置いた研修を今後も実施し、適正な会計事務と支払遅延の防止に努めます。</p> <p>資金運用について、収支見込の精度を上げ、期間や金額を細分化した運用も行った結果、目標を達成することができました。低金利時代の厳しい状況ではありますが、引き続き、効率的な運用により数年来の実績を維持できるよう努めます。</p> <p>所管における情報漏洩の防止、不正が起きない環境づくりと、定期的に契約事務の確認を行い、適正な入札・契約事務の執行に努めました。また、市契約担当部署と連携し、入札・契約制度についての相互理解を深めるとともに、契約担当以外の職員を対象とした研修会も開催し、職員の意識と能力の向上を図りました。</p>

組織目標管理シート

問合せ先(電話番号) 025-232-7325(営業課)

年度	令和4年度		
組織名(部)	水道局総務部	組織名(準部・課・機関名)	営業課
組織の目的	水道をご利用いただくお客さまの視点に立ち、多様化するお客さまのニーズに対応した満足度の高いサービスを提供するとともに、料金徴収業務の効率化を推進します。		

作成日	令和4年4月1日
修正日	
評価日	令和5年3月31日

No.	部 区 組織目標	組織目標	主な取組(事業)	指標						目標達成状況	評価	
				項目(単位)	R1実績	R2実績	R3実績	R4目標	R4結果			補足・参考指標
1	4	ICTを活用した業務の効率化とお客さまサービスの向上を図ります。	・RPA(Robotic Process Automation)の試行導入	実証実験の実施			調査・検討	実施	実施		統計業務や支払伝票の作成について試行を開始しました。令和5年度は、他業務への展開も視野に試行を継続し、導入効果を検証していきます。	達成
			・スマートメーターの実証実験開始(R5年4月)に向けた調整	詳細計画の策定			調査・検討	策定	策定			
2		コールセンターの災害対応力を向上させます。	・コールセンターと共同で災害対応訓練を実施	訓練の実施		実施	実施	実施	実施		大規模停電の発生を想定し、コールセンター受託者と共同で災害対応訓練を実施しました。また、その結果をマニュアルやチェックリストに反映させました。	達成
3		料金部門関係職員の業務遂行能力を向上させます。	・料金実務者研修の実施	講座数(講座)	1	3	3	3	3	研修内容 ・日割計算(推定精算) ・日割計算(停水) ・電算処理予定表の読み取り方	映像視聴型研修として予定の3講座を実施しました。	達成

取り組みについて(今年度重点的に取り組む内容や目標設定の考え方など)	取り組みの結果について(評価内容と評価結果を踏まえた今後の方針など)
<p>ICTを活用した業務の効率化を図るため、RPA(Robotic Process Automation)やスマートメーターの導入に向けた検討を進めます。RPAは、定型的かつ大量にある入力業務等を自動化するものであり、市の導入部署においても事務処理時間の削減効果が確認されています。今年度は1ライセンスを試行導入し、統計業務や支払伝票の作成業務等を対象に効果の検証を行います。</p> <p>スマートメーターの実証実験については、令和5年4月から電力会社のネットワークを利用した共同検針という形でスタートする予定です。今年度は実験開始に向け詳細計画を策定し、通信状況の確認のほか、検針情報の見える化や高齢者等の見守りサービスの実用化など検証項目を明確にしていくとともに、契約の締結、プレスリリース、メーター設置などの準備を進めます。</p> <p>お客さま対応の総合窓口であるコールセンターは、災害時などにおいても業務継続や早期の立ち上げが求められます。そのため、危機事象を想定した委託事業者との共同訓練を継続して実施し、災害に強いコールセンターを目指します。</p> <p>料金実務者研修については、令和2年度から自席で受講できる視聴型研修に変更しており、今年度も継続して実施することで、委託事業者を含めた関係職員の業務遂行能力の向上を図ります。</p>	<p>RPAの実証実験については、当課の統計業務と企業会計の支払伝票作成業務等を対象として実施しています。これら業務においては、手作業に比べ処理スピードの優位性は明らかであり、また、正確性の向上にもつながっています。令和5年度は、対象業務の拡大も視野に試行運用を継続し、引き続き導入効果の検証を行います。</p> <p>スマートメーターの実証実験については、設置場所の選定(10カ所、50戸)を行い、実施計画を策定しました。令和5年度は、この計画に基づき電力会社のネットワークを利用した実証実験を開始し、本格導入に向けた機能検証やデータの収集を行います。</p> <p>コールセンターとの災害対応訓練については、大規模停電の発生を想定して、コールセンターの業務継続をテーマに実施しました。停電時の自家発の稼働や自家発環境下での電話回線や各種システムの動作確認を行い、訓練後の評価をマニュアルやチェックリストに反映させました。</p> <p>料金実務者研修については、映像視聴型研修として予定の3講座を実施しました。本研修は局職員だけでなく、下水道部や委託先の関係職員も受講しており、受講後のアンケート結果も踏まえ来年度の開催形式や研修内容を決定していきます。</p>

組織目標管理シート

問合せ先(電話番号) 025-232-7386(技術管理室)

年度	令和4年度		
組織名(部)	水道局総務部	組織名(準部・課・機関名)	技術管理室
組織の目的	水道工事の設計積算・現場施工・工事成績評定について、適切に技術管理を実施することにより、工事の品質確保及び技術の向上に寄与します。		

作成日	令和4年4月1日
修正日	
評価日	令和5年3月31日

No.	部区 組織目標	組織目標	主な取組(事業)	指標					補足・参考指標	目標達成状況	評価	
				項目(単位)	R1実績	R2実績	R3実績	R4目標				R4結果
1		技術系職員を対象に設計積算研修及び工事成績採点研修を実施します。	・積算照査研修 ・工事成績採点研修	内部研修数(回)	2	2	3	2	2	・設計者、工事成績評定員を対象	専門別研修において「配水管布設工事積算照査」及び「工事成績採点」の研修を行いました。	達成
2	3	工事点検の実施を通じて適切な指導・育成を行います。	・工事点検 ・中間技術検査	工事成績平均点(点)	81.2	80.6	81.1	80.0	81.1	・工事成績平均点を80点以上に維持	工事点検及び中間技術検査を55件実施し、受注者への指導を適切に行ったことにより目標を達成しました。	達成
3		工事の品質確保の一環として、総合評価方式を適正に実施します。	・年間執行管理を確実に実施	試行割合(%)	71.6	72.7	72.9	65.0	71.4	・3,000万円以上の一般競争入札件数における総合評価方式件数の占める割合	各所属との調整を図り、執行管理を適切に行い工事品質の確保に努めました。	達成
4		建設発生土の有効利用を促進し、建設副産物のリサイクル率向上を図ります。	・請負工事単位で建設副産物の再資源化状況を品目別に適宜把握	有効利用率(%)	-	-	99.7	85.0	94.1	・新MP 後期実施計画 施策Ⅷ-1 建設副産物の再利用促進	建設発生土の処分について、砂利採石場での埋め立てに有効利用を図ることにより目標を達成しました。	達成

取り組みについて(今年度重点的に取り組む内容や目標設定の考え方など)	取り組みの結果について(評価内容と評価結果を踏まえた今後の方針など)
<p>技術系職員を対象とした「設計積算」及び「工事成績採点」に係る研修を実施し、円滑な工事発注と適正な工事評定を行います。工事現場における施工体制について工事点検を実施し、工事成績平均点を高水準(≧80点)に維持します。一般競争入札案件に対し、総合評価方式の試行割合(≧65%)を目標として設定することにより、工事の品質を確保します。建設副産物の再資源化の取組み状況を請負工事の履行に併せて把握することにより、リサイクル意識の浸透並びに有効利用率(≧85%)を確保します。</p>	<p>専門別研修については、予定した2つの研修を実施しました。令和5年度では令和4年度工事監査の結果を踏まえた研修資料の見直しを行います。工事成績点については、工事点検等や総合評価方式を適切に執行管理した結果として80点以上を達成しました。建設副産物のリサイクル率向上については、建設副産物情報交換システムにより工事毎による再資源化状況を把握し、局内におけるリサイクル状況の把握に努めたことにより目標を達成しました。</p>

組織目標管理シート

問合せ先(電話番号) 025-232-7346(管路課)

年度	令和4年度		
組織名(部)	水道局技術部	組織名(準部・課・機関名)	管路課
組織の目的	安全でおいしい水を安定的に供給するため、基幹管路の整備・更新を着実に実施し、併せて管路に係る情報を適切に管理することにより、水道の信頼性を確保します。		

作成日	令和4年4月1日
修正日	
評価日	令和5年3月31日

No.	部区 組織目標	組織目標	主な取組(事業)	指標						目標達成状況	評価	
				項目(単位)	R1実績	R2実績	R3実績	R4目標	R4結果			補足・参考指標
1	2	計画的かつ効率的な老朽管路の更新を推進し、水道の信頼性を確保します。	・基幹管路更新事業 ・基幹管路整備事業	基幹管路耐震適合延長(m/年)	-	-	5,164.1	4,030	4,411.5	・R3目標より単年度延長に変更	概ね計画通り工事発注を進め、目標を達成しました。	達成
2	4	監督員の資質向上を図り、工事契約の適正な履行と円滑な施工の確保を実現します。	・監督員研修の実施	監督員研修の習熟度(%)	-	-	92.3	90.0	99.8	・監督員研修開催 ・研修後のアンケート調査により習熟度を測定(平均値)	予定していた研修を実施し、良好な習熟度を確認しました。	達成
3	4	職員の職務能力を向上させ、効率的な業務執行と、安全、確実な施工につなげます。	・課内研修の実施	課内研修の習熟度(%)	94.4	85.6	96.8	90.0	99.3	・課内研修:3講座開催 ①事務研修 ②管路設計計画 ③管路図の読み方 ・研修後のアンケート調査により習熟度を測定(平均値)	予定していた研修を実施し、良好な習熟度を確認しました。	達成

取り組みについて(今年度重点的に取り組む内容や目標設定の考え方など)	取り組みの結果について(評価内容と評価結果を踏まえた今後の方針など)
<p>将来にわたり、安全でおいしい水道水を安定供給するためには、水道管路の耐震化や老朽化対策が喫緊の課題となります。老朽化した配水管を耐震管に更新することにより、大規模な事故を未然に防止するなど、事故や災害に強い配水管網の構築を進めていく必要があります。</p> <p>そのため、基幹管路については、事故発生時の影響度、老朽度、耐震性及びバックアップ機能等を再整理し、平成26年度に策定した「基幹管路整備更新実施計画」に基づき、引き続き着実な更新・整備を進めます。</p> <p>また、工事契約の適正な履行と円滑な施工の確保を図るためには、監督員の資質向上が不可欠です。</p> <p>そのため、受注者に対する指示はもとより、受注者が作成した詳細図等の承諾、工程の管理、立会い、施工状況の検査、工事材料の検査など、監督員業務の実施にあたり必要な知識、経験を身につけるための取組を着実に実施していく必要があります。</p> <p>これらの組織目標を確実に実施するため、課内研修を継続的に実施することで、技術者として必要な技術・知識の向上と現場対応力を強化し、安全、確実な施工につなげます。</p>	<p>関係機関や他占有者との調整に時間を要したことや、寒波対応業務に伴う工事中止の影響もあり、やむなく次年度へ繰り越す工事も一部あったものの、概ね予定どおり工程が進捗し、今年度は目標値を大きく上回る成果を達成しました。</p> <p>監督員研修及び課内研修は、所期の目標を達成し、習熟度も目標値を大きく超える結果となりました。管路担当技術者として、必要な技術・知識の向上と現場対応力を引き続き強化し、来年度以降も継続実施します。</p>

組織目標管理シート

問合せ先(電話番号) 025-232-7358(浄水課)

年度	令和4年度		
組織名(部)	水道局技術部	組織名(準部・課・機関名)	浄水課
組織の目的	浄水場・配水場施設の運転管理と維持管理を適切に行うとともに、災害や事故に対する対応力を高めることで、すべてのお客さまへ安全な水道水を安定的に供給します。		

作成日	令和4年4月1日
修正日	
評価日	令和5年3月31日

No.	部区 組織目標	組織目標	主な取組(事業)	指標						目録達成状況	評価		
				項目(単位)	R1実績	R2実績	R3実績	R4目標	R4結果			補足・参考指標	
1	3	施設の重大事故を防止し、施設の長寿命化を図るため電気・機械設備及び土木施設の維持管理を着実にを行います。	<ul style="list-style-type: none"> 電気、機械設備及び土木施設の計画的な点検の実施 老朽化した設備の修繕や更新工事の実施 断水事故リスク洗い出しと対策の実施 	断水事故対策に係る課内検査の実施(回)	-	-	-	6回/年	6回/年	<ul style="list-style-type: none"> 6浄水場を対象とし、設備における断水事故リスクの洗い出しとともに、改善を要する箇所については、早急な対策を講じます。 改善状況の確認と他浄水場への水平展開を図るため、課内職員による検査を実施し、断水事故を防止します。 	全浄水場を対象に、断水事故につながるリスクの洗い出しを行うとともに、現状の電気回路の把握や仕組みを改めて職員へ周知徹底し、加えて必要に応じ研修を実施するなどし、事故リスクの低減を図りました。また、課内職員による検査の実施により、事故防止に係るダブルチェックを行い、対策の実効性を確保しました。	達成	
				設備不良を起因とした浄水場機能停止事故の件数(件)	-	-	-	0	0	<ul style="list-style-type: none"> 停電等の外部要因を除き、設備の不具合や不良を原因として、送配水ができなくなった事故を、件数として算入します。 	引き続き、次年度以降においても、施設の維持管理や対策を着実に実施し、施設の重大事故ゼロにつなげていきます。		
2	4	事故・災害時の対応力と専門技術力の向上のため、各浄水場の特性に合わせた研修や訓練を実施します。	<ul style="list-style-type: none"> 危機管理に関する対応訓練 施設維持管理に関する訓練 浄水処理に関する技術研修 監督員の資質向上に関する研修 	訓練・研修における習熟度(%)	-	-	-	85.0	92.5	<ul style="list-style-type: none"> 2訓練及び技術研修・各1回/年 2回/年(監督員研修) 訓練・研修後に、習熟度を測定するため、テストを実施(平均値) 	停電対応などの危機管理や施設の維持管理に係る研修を予定通り実施し、目標を上回る習熟度結果を得ることができました。	引き続き、事故・災害時の対応力と専門技術力の向上に向け、実践的な研修実施に努めます。	達成
3	4	浄水技術を着実に継承するため、人材育成プログラムを強化し、若手技術者を育成します。	<ul style="list-style-type: none"> 「浄水技術者育成計画」に基づく人材育成 育成者の習得状況確認と検証 	スキルマップ習得状況のプロセス確認(段階)	-	-	3段階	3段階	3段階	<ul style="list-style-type: none"> 入局10年目までの技術職員を対象 育成責任者と育成者で習得状況について面談を3段階で実施して確認します。(目標設定、中間、最終) 最終段階での面談による意見聴取に基づき、育成委員会で検証し必要により計画の改善を図ります。 	各浄水場で、育成責任者と育成者でスキルマップを活用した面談と育成委員会会議などを計画どおり実施し、若手技術者の育成を図りました。今後も「浄水技術者育成計画」に基づき、人材育成を継続します。	達成	
4		浄水発生土の有効利用を継続し、廃棄物の減量化を推進します。	<ul style="list-style-type: none"> 浄水発生土の有効利用 	浄水発生土の有効利用率(%)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	<ul style="list-style-type: none"> 有効利用率＝有効利用土量／浄水発生土量(天日乾燥後搬出が可能となった汚泥のうち有効利用した割合) 	天日乾燥後、搬出可能となった汚泥は、全量建設改良土やセメント原材料として、有効利用しました。	達成	

取り組みについて(今年度重点的に取り組む内容や目標設定の考え方など)	取り組みの結果について(評価内容と評価結果を踏まえた今後の方針など)
<p>計画的な施設・設備機器の点検(法定点検及び自主点検)を行い、その結果を適切に評価して修繕や更新を行うことで、重大事故を防止し水道水の安定供給に努めます。さらに、適切なメンテナンスにより設備の長寿命化を図るとともに、断水事故リスクを洗い出し、改善を要する設備等については、早急に対策を講じます。</p> <p>自然災害、施設事故および河川の水質変動などに即応できるように、各浄水場において危機管理対応訓練を実施し、高い現場対応力を有した職員を育成します。</p> <p>加えて、工事契約の適正な履行を図るため、監督員の知見やスキル向上を目的とした研修及び習熟度調査を実施します。監督員業務の実施にあたり、受注者に対する適切な指示、詳細図等の提出書類の照査、適切な工程管理に必要な取組みとして着実に進めます。</p> <p>また、浄水技術の維持・継承のため、平成29年度から運用を開始した「浄水技術者育成計画」に基づく若手技術者の育成を強化継続します。習得すべき技術についてはスキルマップを使用しその到達度を確認するとともに、若手職員のモチベーション向上にもつなげます。</p> <p>なお、浄水処理工程で発生する汚泥については全量搬出し有効利用することで、環境に配慮した事業運営を行います。</p>	<p>断水事故リスクの洗い出しや計画的な設備機器の点検、適切な機器故障対応で、設備不良を起因とする浄水場機能停止事故の防止を図りました。また、浄水処理及び災害時等の現場対応力向上を目的とした訓練や研修のほか、工事監督員に係る研修などを通じて、若手技術職員の育成に取り組む、浄水課全体の技術向上を図りました。</p> <p>1月に発生した寒波では、直近の配水量の状況や過去の配水量時系列データなどをを用いて配水量予測を行ったものの、漏水量や融雪水量などの不確かな情報をもとに予測していることもあり、精度向上が困難などの課題も浮き彫りになりました。引き続き、他課とも連携しつつ、精度向上の検討を進めます。</p> <p>浄水発生土の有効利用については、今年度も計画通り完了しました。引き続き今後も適切な有効利用を図っていきます。</p>

組織目標管理シート

問合せ先(電話番号) 025-266-7466(水質管理課)

年度	令和4年度		
組織名(部)	水道局技術部	組織名(準部・課・機関名)	水質管理課
組織の目的	水道水源から給水栓まで一貫した水質管理を行い、水道水の安全性を確認して品質を保証します。加えておいしい水を提供することで、水道水に対する市民の信頼を得ることを目的とします。		

作成日	令和4年4月1日
修正日	
評価日	令和5年3月31日

No.	部区 組織目標	組織目標	主な取組(事業)	指標						目標達成状況	評価	
				項目(単位)	R1実績	R2実績	R3実績	R4目標	R4結果			補足・参考指標
1	1	安全で良質な水道水を継続的に供給するために水安全計画の充実・適切な運用を行います。	・PDCAサイクルに沿った運用	水安全計画の評価実施率(%)	-	-	100.0	100.0	100.0	・毎年2月頃全ての浄水場で妥当性を確認	目標を達成しました。	達成
2	1	より安全な水道水を提供するため、市独自の目標値を定め管理を徹底します。	・農業類の管理目標値の設定 ・モニタリングの実施 ・粉末活性炭処理 ・結果の評価	農業類の本市独自目標達成率(%) (国の目標値の1/10以下)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	・原水と浄水についてモニタリングを実施し、検出濃度に応じた粉末活性炭処理を実施。	目標を達成しました。	達成
			・総トリハロメタンの管理目標値の設定 ・モニタリングの実施 ・粉末活性炭処理 ・結果の評価	総トリハロメタンの本市独自目標達成率(%) (浄水場出口からの流達時間が24時間以内の地点で水質基準値の1/2以下)	-	-	100.0	100.0	100.0	・浄水場出口及び給水栓でトリハロメタン類をモニタリングし、検出濃度に応じた粉末活性炭処理を実施。	目標を達成しました。	
3	1	河川水質事故による水道水への被害を防止します。	・水質事故時の緊急連絡 ・水道原水の定期的な調査	水道水質に影響を及ぼした回数(回)	0	0	0	0	0	・信濃川・阿賀野川両水系水質協議会会員や関係団体と連携し、水質事故情報を(夜間休日を含めた緊急通報の実施)。	目標を達成しました。	達成
4	4	職員の職務遂行能力の向上に繋がる研修等を実施します。	・調査・研究成果の発表 ・分析技術に係る水道GLP教育訓練	課内外研修回数(回)	14	10	13	10	10	・調査・研究成果を水道研究発表会などで発表。分析講習会や精度管理研修への参加など。	目標を達成しました。	達成

取り組みについて(今年度重点的に取り組む内容や目標設定の考え方など)	取り組みの結果について(評価内容と評価結果を踏まえた今後の方針など)
<p>安全な水道水を安定して供給するための水質管理に重点的に取り組みます。</p> <p>「水安全計画」を確実に実施するとともに、その取り組みについて適切に評価を行い、必要に応じて見直しを行います。より安全な水道水を提供するため、農業及び総トリハロメタンの管理については、本市が独自に定めた水質基準値等よりも厳しい管理目標値を達成するために、効率的な粉末活性炭処理を実施します。河川水質事故による水道水への被害を防止するために、両水協を中心として関係団体と連携し迅速な情報共有を図ります。</p> <p>水質管理に係る人材育成として、OJTが効率よく行える環境を整備するとともに、水道GLP教育訓練を年間実施計画に基づき確実に実施し、水質管理技術のレベルアップを目指します。くわえて、調査研究を計画的に実施し、その成果を業務へ反映させます。</p>	<p>令和4年度は全ての項目で目標を達成しました。</p> <p>水安全計画についてはPDCAサイクルにそった運用を実施するとともに、全浄水場において妥当性の確認と実施状況の検証を行いました。令和5年度については妥当性の確認結果等を踏まえ、より活用しやすい内容・構成へ見直す予定です。</p> <p>農業類・総トリハロメタン類については、粉末活性炭処理と定期的なモニタリングを着実に実施し、管理目標値を達成しました。引き続き、農業類・総トリハロメタン類について重点的な管理を行い、より安全な水道水の供給に努めます。</p> <p>職員の職務能力向上では、コロナ禍においてもオンライン研修を活用するなどにより、分析技術の計画的な習得を進め教育訓練を着実に実施しました。今後も、これらの成果を現場に反映できるよう努めます。</p>

組織目標管理シート

問合せ先(電話番号) 025-232-7379(中央事業所料金課)

年度	令和4年度		
組織名(部)	水道局技術部	組織名(準部・課・機関名)	中央事業所料金課
組織の目的	水道料金を担当する部署として、水道利用者であるお客さまの立場に立って、料金徴収を迅速かつ正確・丁寧に行い、心のこもったサービスを提供します。		

作成日	令和4年4月1日
修正日	
評価日	令和5年3月31日

No.	部区 組織目標	組織目標	主な取組(事業)	指標					補足・参考指標	目標達成状況	評価	
				項目(単位)	R1実績	R2実績	R3実績	R4目標				R4結果
1	4	お客さまと直接関わる業務の受託者と課題を共有し、円滑な連携体制を築きます。	・再検針事務等受託者との研修会の開催	研修会開催回数(回)	5	4	5	4	4		寒波による危機事象対応により、実施時期が当初より変更になったものもありましたが、委託業務遂行に関連の深い題材での研修を実施し目標を達成しました。	達成
			・収納業務受託者との研修会の開催	研修会開催回数(回)	5	4	5	4	4			
2	4	災害時の応急給水活動を迅速に行えるようにします。	・仮設給水栓設置訓練の実施 ・応急給水消火栓操作(仮設給水栓設置,キャンバス水槽注水)訓練の実施 ・給水車運転、操作訓練の実施	応急給水訓練の実施回数(回)	4	3	3	4	4	・拠点給水所設営可能者の割合＝仮設給水栓設置訓練経験者※/職員数※ ※拠点給水所設営に従事できない職員を除く	計画どおりに応急給水訓練を実施し、実施回数および、拠点給水所設営可能者の割合を確保し、目標を達成しました。	達成
			[災害協定者等との合同応急給水訓練の実施]	拠点給水所設営可能者の割合(%)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0			
3	4	職員の意識改革や資質を向上させます。	・料金課職員として必要とされるスキルをテーマとした所属内研修の実施	所属内研修の理解度(%)	76.4	90.2	91.4	90.0	91.8	・所属内研修4講座以上開催 ・研修実施後のアンケート調査により理解度を測定(平均値)	目標とする研修講座数(4回)を実施しました。 また、研修後の理解度を測定する3講座の平均理解度は91.8%となり、目標を達成しました。	達成

取り組みについて(今年度重点的に取り組む内容や目標設定の考え方など)	取り組みの結果について(評価内容と評価結果を踏まえた今後の方針など)
<p>組織の目的である、迅速かつ正確・丁寧な料金徴収と心のこもったサービスの提供を達成するためには、お客さまと直接関わる業務の受託者と課題を共有しながら連携を強固にする必要があることから、水道事業全般に係る研修会等を実施し、円滑な連携体制を築きます。</p> <p>また、料金課は災害時において給水班としての責務を担い、迅速な応急給水活動が求められるため、給水班だけでなく、水道局内の準中型運転免許新規取得者を含めた給水車運転研修を計画し、より実践的な応急給水訓練を秋葉事業所料金課と合同で実施することとします。</p> <p>さらに、お客さまの立場に立ったサービスを行うため、料金徴収部署として特に重要視しているコンプライアンス体制及び個人情報保護体制の構築に努めるとともに、業務に特化したテーマによる所属内研修を前年度に引き続き実施します。また、局内研修にも積極的に参加することで、更なる職員の意識改革と資質の向上を図ります。</p>	<p>業務受託者との研修会では、業務に関連の深い題材による研修のほか、委託業務監査研修を実施し、課題を共有することができました。今後も受託者との円滑な連携体制を強化し、お客さまサービスの向上に努めます。</p> <p>仮設給水設備設置・応急給水訓練では、秋葉事業所料金課と合同で訓練を企画・実施し、職員全員がいずれかの研修に参加したこと、災害協定を締結している業務受託者(新潟市管工事業協同組合、新潟水道サービス、第一環境)及び、技術系職員の参加により、有事の際における対応力の向上に努めました。</p> <p>また、今年度は新たに給水班の枠組みを超えた給水車の操作・運転研修を開催し、(給水班以外の)多くの若手職員が経験を積むことができました。このような訓練は繰り返し実施することが重要なことから、基本的な内容は踏襲しながら今後も継続して実施します。</p> <p>今後も職員の意識改革と業務受託者の意識醸成を図るため、局内外を問わない積極的な研修参加と計画を実施していきます。</p>

組織目標管理シート

問合せ先(電話番号) 025-232-7367(中央事業所工務課)

年度	令和4年度		
組織名(部)	水道局技術部	組織名(準部・課・機関名)	中央事業所工務課
組織の目的	高度化・多様化するお客さまニーズに対応した“きめ細やか”なサービスを提供するとともに、安全でおいしい水を安定してお客さまに提供します。		

作成日	令和4年4月1日
修正日	
評価日	令和5年3月31日

No.	部区 組織目標	組織目標	主な取組(事業)	指標						目標達成状況	評価	
				項目(単位)	R1実績	R2実績	R3実績	R4目標	R4結果			補足・参考指標
1	2	強靱な施設の構築により給水を確保します。	・老朽配水支管更新	更新周期越えの配水管の更新延長(m)	5,809.4	5,607.9	7,675.8	6,470.0	7,755.3	・配水支管の更新(工事発注件数: 32本) ・新潟市消防局を耐震化 R4 ・東区役所を耐震化 R4~R6	老朽配水支管更新では、道路管理者との協議難航等により単価が高い特殊な工事3本を含む計7本を次年度以降に先送りすることとなりました。代替で発注した工事が通常の単価であったため、結果として目標を上回る延長となりました。 重要施設向け配水管の耐震化では、新潟市消防局の耐震化を完了するとともに東区役所の耐震化に着手しました。	達成
			・重要施設向け配水管の耐震化	更新件数(件)	2	3	1	1	1			
2	4	安全な水道水をお客さまに供給し、水質事故を防止します。	・指定給水装置工事事業者の技術力向上	指導実施回数(回)	1	1	1	1	1	・指定給水装置工事事業者更新手続きの際、秋葉事業所工務課と合同で指導を実施 ・書類検査箇所について、抜き打ちで現地検査を行う。	指定給水装置工事事業者の更新手続きの際、更新対象事業者に対し施工上の注意点などについて指導するとともに、計画に沿った抜き打ち検査を実施し、業者指導に努めました。その結果、給水装置に起因する水質事故の発生もありませんでした。	達成
			・給水装置工事の審査及び検査の徹底	抜き打ち検査件数(件)	262	242	242	240	242			
3	4	職員の職務遂行能力の向上のため、課内研修を行います。	・監督員研修	研修の理解度(%)	—	—	96.0	90.0	99.3	課内研修後のアンケート調査等により理解度を測定(平均値)	予定した全ての研修で理解度の目標値を達成することができました。	達成
			・水理解析研修		91.1	92.5	94.8	90.0	91.5			
			・給水装置研修		95.1	91.9	87.4	85.0	91.5			
			・事務研修		89.8	89.0	82.9	80.0	83.0			

取り組みについて(今年度重点的に取り組む内容や目標設定の考え方など)	取り組みの結果について(評価内容や評価結果を踏まえた今後の方針など)
<p>漏水事故の未然防止及び安定給水を確保するため、アセットマネジメント手法を取り入れて策定した更新周期に合わせて、老朽化した配水管を計画的に更新します。</p> <p>また、安全な水道水を供給するには、施工に携わる指定給水装置工事事業者の技術力向上が不可欠なため、更新手続きでの指導や抜き打ち検査などで指導を強化し、給水装置に起因する水質事故を防止します。</p> <p>さらに、水道事業を取り巻く様々な変化に柔軟かつ弾力的に対応できる職員の育成を目指した研修を実施し、職員の職務遂行能力の向上を実現します。</p>	<p>老朽配水支管更新では、道路管理者との協議難航や不調等により、当初予算で想定した32本のうち7本の発注を見送ることとなりましたが、代替路線を選定・発注することにより効率的な更新に努めました。重要施設向け配水管の耐震化では、新潟市消防局の耐震化を完了するとともに、東区役所の耐震化に着手しました。</p> <p>水質事故の防止については、指定給水装置工事事業者の更新手続きの際、更新対象事業者に対し、施工上の注意点などについて指導するとともに、計画に沿った抜き打ち検査を実施し、業者指導に努めました。安全でおいしい水の供給には給水装置の適正な管理が不可欠であり、今後も取組みを進め、給水装置に起因する水質事故の防止に努めます。</p> <p>職員の職務遂行能力の向上を図るための課内研修では、理解度を指標としておりますが、令和3年度より実施した「監督員研修」を含む全ての研修について目標を上回る理解度を達成できました。今後も職員のスキルアップに向けたニーズの把握に努め、効果的な研修を実施し、職員の更なる能力向上を目指していきます。</p>

組織目標管理シート

問合せ先(電話番号) 025-232-7350(中央事業所維持管理課)

年度	令和4年度		
組織名(部)	水道局技術部	組織名(準部・課・機関名)	中央事業所維持管理課
組織の目的	高度化・多様化するお客さまニーズに対応した“きめ細やか”なサービスを提供するとともに、安全でおいしい水を安定してお客さまに提供します。		

作成日	令和4年4月1日
修正日	
評価日	令和5年3月31日

No.	部区 組織目標	組織目標	主な取組(事業)	指標					補足・参考指標	目標達成状況	評価	
				項目(単位)	R1実績	R2実績	R3実績	R4目標				R4結果
1	2	配水管漏水事故の縮減のため、老朽配水管、漏水が懸念される配水管の更新工事を確実に行います。	・小口径老朽管更新 ・配水管改良	配水管更新延長(m)	1,211	1,352	760	570	630		老朽配水管の更新を計画的に実施したことにより、目標値を達成することができました。	達成
2	2	給水管漏水事故の縮減のため、鉛給水管の更新を確実に行います。	・小口径老朽管更新 ・鉛給水管更新	鉛給水管更新件数(件)	627	501	486	430	503		鉛給水管の更新を計画的に実施したことにより、目標値を達成することができました。	達成
3	4	職員の職務遂行能力の向上のため、課内研修を行います。	・給水車運転操作研修	研修の理解度 (%)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	・課内研修後のアンケート調査により理解度を判定(平均値)	現場実務に直結した研修を実施し目標値を達成することができました。これにより職務遂行能力の向上を図ることができました。	達成
			・管路探知・漏水探知研修		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0		同上	
			・監督員研修		-	-	95.0	90.0	98.7		同上	
			・配水管漏水事故対応訓練	実施回数(回)	1	1	1	1	1		H16小ブロック注入点直近(JR白新線横断管)の漏水を想定した訓練を実施しました。	

取り組みについて(今年度重点的に取り組む内容や目標設定の考え方など)	取り組みの結果について(評価内容と評価結果を踏まえた今後の方針など)
<p>老朽配水管、漏水の懸念される配水管及び鉛給水管の計画的な更新を進め、給配水管における漏水事故を未然に防止し、水道の安定供給を確保します。</p> <p>配水管事故の迅速かつ的確な復旧を行うため、緊急連絡体制の確認を含む想定事故への対応等の実践訓練を実施し、不測の事態に備えます。また、水道事業を取り巻く様々な変化に柔軟かつ弾力的に対応できる職員の育成を目指した研修を実施し、職員の職務遂行能力を向上させます。</p>	<p>当初の計画どおり、漏水の懸念される配水管及び鉛給水管の更新を行うことができました。今後も配水管等の更新を計画的に推進し、漏水事故の未然防止に努めます。</p> <p>水道事業を取り巻く環境の変化に速やかに対応し、かつ、現場実務に必要な知識や技能を習得するため、今後も継続的に研修を実施し職員の職務遂行能力の向上を図ります。また、配水管事故の迅速な復旧を行うため、緊急連絡体制の確認を含めた実践訓練を継続的に実施します。</p>

組織目標管理シート

問合せ先(電話番号) 025-387-1851(北営業所)

年度	令和4年度		
組織名(部)	水道局技術部	組織名(準部・課・機関名)	中央事業所北営業所
組織の目的	地域の皆様から信頼される、安全安心な水道を構築します。		

作成日	令和4年4月1日
修正日	
評価日	令和5年3月31日

No.	部区 組織目標	組織目標	主な取組(事業)	指標						目標達成状況	評価	
				項目(単位)	R1実績	R2実績	R3実績	R4目標	R4結果			補足・参考指標
1	2	配水管漏水事故の縮減のため、老朽配水管、漏水が懸念される配水管の更新工事を確実にを行います。	・老朽配水管更新 ・配水管改良	配水管更新延長(m)	990	955	871	674	780		計画的に工事を発注し、確実な実施に努めたことにより、目標の更新延長を達成できました。	達成
2	2	給水管漏水事故の縮減のため、鉛給水管の更新を確実にを行います。	・小口径管鉛給水更新 ・鉛給水管更新	鉛給水管更新件数(件)	175	184	171	120	126	・競合するガス工事の減少による減	鉛給水管更新工事の実施にあたり、関係者との事前調整を確実に行ったことにより、目標を達成することができました。	達成
3	4	職員の職務遂行能力の向上のため、課内研修を行います。	・監督員研修	研修の理解度(%)	-	-	98.0	90.0	100.0	・課内研修後のアンケート調査等により理解度を測定(平均値)	研修テーマの理解度は達成水準を満たし、研修の効果を確認できました。	達成
			・水理解析研修		90.0	90.0	100.0	100.0	100.0			
			・給水車運転操作研修		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0			
			・配水管漏水事故対応訓練	実施回数(回)	1	1	1	1	1			

取り組みについて(今年度重点的に取り組む内容や目標設定の考え方など)	取り組みの結果について(評価内容と評価結果を踏まえた今後の方針など)
<p>老朽配水管、漏水の懸念される配水管及び鉛給水管の計画的な更新を進め、給配水管における漏水事故を未然に防止し、水道の安定供給を確保します。</p> <p>配水管事故の迅速かつ的確な復旧を行うため、緊急連絡体制の確認を含む想定事故への対応等の実践訓練を実施し、不測の事態に備えます。</p> <p>また、水道事業を取り巻く様々な変化に柔軟かつ弾力的に対応できる職員の育成を目指した研修を実施し、職員の職務遂行能力を向上させます。</p>	<p>老朽配水管更新工事及び配水管改良工事は、計画的に工事を発注し、確実な実施に努めたことにより、目標の更新延長を達成できました。老朽配水管更新工事においては、令和2年度より継続して東区赤道以東地区を担当しており、今後も工事場所における地域特性を踏まえた計画的発注及び効率的な工事の実施に取り組めます。</p> <p>一方、配水管漏水事故の縮減においては、適正な箇所選別による効果的な管路更新を行いました。また、不測の事態に備えて維持管理困難路線への対応を行いました。今後とも引き続き取り組みを強化し、効率的な配水管網の構築に努めていきます。</p> <p>鉛給水管更新は、他事業者及び給水装置工事事業者との事前調整を確実に実施することにより、目標の更新件数を達成できました。年々鉛給水管が減少し、競合箇所が限られてきていますが、積極的に調整を進め舗装復旧費用の縮減を図るとともに、目標更新件数の達成に努め更新を進めていきます。</p> <p>職員の職務遂行能力向上については、予定した課内研修を全て実施し、理解度測定による目標数値を達成することができました。令和5年度も監督員の資質向上を目標とした研修を予定し、また、危機事象対応としての配水管漏水事故対応訓練及び給水車運転操作研修は引き続き研修内容を精査し、職員の要も踏まえ業務に有効な研修を実施していきます。</p>

組織目標管理シート

問合せ先(電話番号) 0256-72-2209(西蒲営業所)

年度	令和4年度		
組織名(部)	水道局技術部	組織名(準部・課・機関名)	中央事業所西蒲営業所
組織の目的	地域の皆様から信頼される、安全安心な水道を構築します。		

作成日	令和4年4月1日
修正日	
評価日	令和5年3月31日

No.	部区 組織目標	組織目標	主な取組(事業)	指標						目標達成状況	評価	
				項目(単位)	R1実績	R2実績	R3実績	R4目標	R4結果			補足・参考指標
1	2	配水管漏水事故の縮減のため、漏水が懸念される配水支管の更新工事を確実にを行います。	・配水支管改良	配水支管更新延長(m)	1,042	1,715	1,811	1,010	1,049	・輻輳路線の更新に伴い、不用となる配水支管の撤去費が増加したことにより更新延長が減	適切に進捗管理を行ったことにより、目標の更新延長を上回り目標を達成しました。	達成
2	2	給水管漏水事故の縮減のため、鉛給水管の更新を確実にを行います。	・鉛給水管更新 ・小口径老朽管更新	鉛給水管更新件数(件)	52	45	40	35	35	・競合するガス工事の減少による減	競合するガス工事が減少しましたが、漏水などの修繕工事を鉛管更新件数の目標を達成しました。	達成
3	4	職員の職務遂行能力の向上させ、効率的な業務執行と、安全、確実な施工につなげます。	・監督員研修	研修の理解度(%)	-	-	94.0	90.0	100.0	・課内研修後のアンケート調査等により理解度を判定(平均値)	研修後のアンケート結果より所内平均の理解度が全て目標値を上回り目標を達成しました。	達成
			・水理解析研修		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0			
			・給水車運転操作研修		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0			
			・配水管漏水事故対応訓練	実施回数(回)	1	1	1	1	1			

取組みについて(今年度重点的に取り組む内容や目標設定の考え方など)	取組みの結果について(評価内容と評価結果を踏まえた今後の方針など)
<p>漏水懸念路線や維持管理困難な配水支管及び鉛給水管について計画的に更新を進め、給配水管における漏水事故を未然に防止することにより、水道の安定供給を確保します。</p> <p>近年の大規模災害や配水管漏水事故の発生に対し、迅速かつ確に対応できるよう、想定事象への対応や緊急連絡体制の確認を含めた訓練を実施し、不測の事態に備えます。また、水道事業を取り巻く様々な変化や地域特性に柔軟かつ弾力性を求めた内容にすることで、組織的な対応能力の向上を図ります。</p>	<p>既設配水支管の更新については、漏水懸念及び維持管理が困難な配水支管の更新を適切に進捗管理を行い、更新延長は1,049mとなり、目標の1,010mを上回りました。来年度も進捗管理を適切に行い目標達成に努力したいと思います。</p> <p>鉛給水管の更新については、競合工事が減少しましたが漏水などの修繕工事を鉛管更新とした35件を更新することができました。また来年度においても競合するガス工事などと積極的に調整を進め舗装復旧費用を縮減するため道路部分の鉛管を優先して更新したいと考えています。</p> <p>課内研修については、監督員研修・水理解析研修・給水車運転操作研修を行い、研修後の理解度アンケートでは全ての研修において目標の理解度を達成し職員のスキルアップが図られました。また、配水管漏水事故対応訓練では大口需要家が多い、岩室系の配水管漏水事故を想定し断水・濁水の影響予測し、初動対応について確認しました。来年度以降も効果的な課内研修を4項目程度予定し、技術の継承と高い技術力の習得に励み、更なる職員のレベルアップを図りたいと考えています。</p>

組織目標管理シート

問合せ先(電話番号) 0250-22-2059(秋葉事業所料金課)

年度	令和4年度		
組織名(部)	技術部	組織名(準部・課・機関名)	秋葉事業所料金課
組織の目的	水道料金を担当する部署として、水道利用者であるお客さまの立場に立って、料金徴収を迅速かつ正確・丁寧に行い、心のこもったサービスを提供します。		

作成日	令和4年4月1日
修正日	
評価日	令和5年3月31日

No.	部 区 組織目標	組織目標	主な取組(事業)	指標						補足・参考指標	目標達成状況	評価
				項目(単位)	R1実績	R2実績	R3実績	R4目標	R4結果			
1	4	お客さまと直接関わる業務の受託者と課題を共有し、円滑な連携体制を築きます。	・再検針事務等受託者との研修会の開催	研修会開催回数(回)	6	4	5	4	4		寒波による危機事象対応により、実施時期が当初より変更になったものもありましたが、委託業務遂行に関連の深い題材での研修を実施し目標を達成しました。	達成
			・収納業務受託者との研修会の開催	研修会開催回数(回)	6	4	5	4	4			
2	4	災害時の応急給水活動を迅速に行えるようにします。	・仮設給水栓設置訓練の実施 ・応急給水消火栓操作(仮設給水栓設置、キャンパス水槽注水)訓練の実施 ・給水車運転、操作訓練の実施	応急給水訓練の実施回数(回)	4	3	3	4	4	・拠点給水所設営可能者の割合＝ 仮設給水栓設置訓練経験者※/職員数※ ※拠点給水所設営に従事できない職員を除く	計画どおりに応急給水訓練を実施し、実施回数および、拠点給水所設営可能者の割合を確保し、目標を達成しました。	達成
			[災害協定者等との合同応急給水訓練の実施]	拠点給水所設営可能者の割合(%)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0			
3	4	職員の意識改革や資質を向上させます。	・料金課職員として必要とされるスキルをテーマとした所属内研修の実施	所属内研修の理解度(%)	94.0	96.0	96.8	90.0	97.8	・所属内研修4講座以上開催 ・研修実施後のアンケート調査により理解度を測定(平均値)	目標とする研修講座数(4回)を実施しました。 また、研修後の理解度を測定する3講座の平均理解度は97.8%となり、目標を達成しました。	達成

取り組みについて(今年度重点的に取り組む内容や目標設定の考え方など)	取り組みの結果について(評価内容と評価結果を踏まえた今後の方針など)
<p>組織の目的である、迅速かつ正確・丁寧な料金徴収と心のこもったサービスの提供を達成するためには、お客さまと直接関わる業務の受託者と課題を共有しながら連携を強固にする必要があることから、水道事業全般に係る研修会等を実施し、円滑な連携体制を築きます。</p> <p>また、料金課は災害時において給水班としての責務を担い、迅速な応急給水活動が求められるため、新たに給水車運転研修を計画し、より実践的な応急給水訓練を中央事業所料金課と合同で実施することとします。</p> <p>さらに、お客さまの立場に立ったサービスを行うため、料金徴収部署として特に重要視しているコンプライアンス体制及び個人情報保護体制の構築に努めるとともに、業務に特化したテーマによる所属内研修を前年度に引き続き実施します。また、局内研修にも積極的に参加することで、更なる職員の意識改革と資質の向上を図ります。</p>	<p>業務受託者との研修会では、業務に関連の深い題材による研修のほか、委託業務監査研修を実施し、課題を共有することができました。今後も受託者との円滑な連携体制を強化し、お客さまサービスの向上に努めます。</p> <p>仮設給水設備設置・応急給水訓練では、中央事業所料金課と合同で訓練を企画・実施し、職員全員がいずれかの研修に参加したこと、災害協定を締結している業務受託者(新潟市管工事業協同組合、新潟水道サービス、第一環境)及び、技術系職員の参加により、有事の際における対応力の向上に努めました。</p> <p>また、今年度は新たに給水班の枠組みを超えた給水車の操作・運転研修を開催し、(給水班以外の)多くの若手職員が経験を積むことができました。このような訓練は繰り返し実施することが重要なことから、基本的な内容は踏襲しながら今後も継続して実施します。</p> <p>今後も職員の意識改革と業務受託者の意識醸成を図るため、局内外を問わない積極的な研修参加と計画を実施していきます。</p>

組織目標管理シート

問合せ先(電話番号) 0250-22-3430(秋葉事業所工務課)

年度	令和4年度		
組織名(部)	水道局技術部	組織名(準部・課・機関名)	秋葉事業所工務課
組織の目的	高度化・多様化するお客さまニーズに対応した“きめ細やか”なサービスを提供するとともに、安全でおいしい水を安定してお客さまに提供します。		

作成日	令和4年4月1日
修正日	
評価日	令和5年3月31日

No.	部区 組織目標	組織目標	主な取組(事業)	指標						補足・参考指標	目標達成状況	評価
				項目(単位)	R1実績	R2実績	R3実績	R4目標	R4結果			
1	2	配水管漏水事故の縮減のため、老朽配水支管、漏水が懸念される配水支管の更新工事を確実にを行います。	・老朽配水支管更新 ・配水支管改良 ・小口径老朽管更新 ・重要施設向け耐震化	配水支管更新延長(m)	2,630	2,068	1,465	1,269	1,527		計画的に事業を推進した結果、目標を達成しました。	達成
2	4	安全な水道水をお客さまに供給し、水質事故を防止します。	指定給水装置工事事業者の技術力向上	指導実施回数(回)	1	1	1	1	1	指定給水装置工事事業者更新手続きの際、中央事業所工務課と合同で指導を実施。	指定給水装置工事事業者の更新手続きの際、更新対象事業者に対し、施行上の注意点などについて指導しました。	達成
			・給水装置工事の審査及び検査の徹底	抜き打ち検査件数(件)	60	60	61	60	60	書類検査箇所について毎月5件抽出し、抜き打ちで現地検査を行う。	目標を達成しました。	
3	4	職員の職務遂行能力の向上のため、課内研修を行います。	・監督員研修	研修の理解度(%)	-	-	97.9	90.0	99.8	課内研修後のアンケート調査等により理解度を測定(平均値)。	工事の監督員研修と給水車等の操作に関する実地研修を実施し、工事業者に対し適正に指導できることや給水車等を的確に操作できることを、アンケートにより確認しました。	達成
			・管路漏水探知技術研修		100.0	100.0	92.5	100.0	100.0			
			・給水車操作研修		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0			
			・配水管漏水事故対応訓練	実施回数(回)	1	1	1	1	1	漏水事故初動対応訓練を実施し、事故発生時の初動対応について確認しました。		

取り組みについて(今年度重点的に取り組む内容や目標設定の考え方など)	取り組みの結果について(評価内容と評価結果を踏まえた今後の方針など)
<p>老朽配水支管等の計画的な更新により漏水事故の未然防止を図り、安定供給を確保します。</p> <p>また、安全な水道水を供給するには施工に携わる指定給水装置工事事業者の技術力向上が不可欠なため、更新手続きでの指導や抜き打ち検査などの検査の徹底により、給水装置に起因する水質事故を防止します。</p> <p>さらに、水道事業を取り巻く様々な変化に柔軟かつ弾力的に対応できる職員の育成を目指した研修を実施し、職員の職務遂行能力を向上させます。</p>	<p>老朽配水支管の更新、漏水多発路線の改良等について、目標を達成することができました。今後も計画的に更新を推進し、漏水事故の未然防止を図り、安定供給の確保に努めます。</p> <p>水質事故の防止については、指定給水装置工事事業者の更新手続きの際、更新対象事業者に対し、施行上の注意点などについて指導しました。また、抜き打ち検査を実施し、目標を達成しました。安全でおいしい水の供給には給水装置の適正な施行が不可欠であり、今後も取り組みを進め、給水装置に起因する水質事故の防止に努めます。</p> <p>職員の職務遂行能力の向上については、工事の監督員研修と給水車等の操作に関する実地研修の計3講座を実施し、研修内容についてアンケート調査した結果、工事業者への適正指導や的確な給水車等の操作について理解できたことを確認しました。また、漏水事故初動対応訓練を実施し、主要配水管路の漏水事故が発生した場合について、事故発生時の断水・濁水影響予測、重要施設や大口需要者への初動対応などについて確認しました。今後も効果的な研修を実施し、技術の継承と高い技術力の習得に励み、更なるレベルアップを図ります。</p>